

総 会

● 構造調査コンサルティング協会



構造調査コンサルティング協会（秋山友昭会長）は16日、都内で第17期通常総会を開いた。各種講習会の開催、構造物評定業務の強化などを盛り込んだ2018年度事業計画を決めた。

あいさつに立った秋山会長＝写真＝は、「今期は安定した協会の運営とともに、会員の増強や天井耐震、構造調査士資格の推進などに努めたい」とあいさつした。その上で「来年は設立30

周年を迎える。今後は他団体との交流や海外の企業との連携を図っていく」と意気込みを語った。

総会后、工学院大学の宮澤健二名誉教授が「木構造の耐震性と伝統木造の耐震補強」と題した講演会を行い、阪神淡路大震災や新潟県中越地震で被害を受けた社寺建築の復旧に関する実験調査結果などを踏まえ、今後の対応を解説した。また、桜設計集団の佐藤孝浩氏が重要文化財の「矢幡浜市立日土小学校の耐震補強設計」をテーマに歴史的建造物の修復作業を紹介した。